

H31.3.1 頸北・東頸地区多職種連携研修会アンケート結果

		人数	割合	回収率96.7%(58人/60人)	
職種	医療	16	27.60%		
	介護	42	72.40%		
1、 だ っ た か 意 義	①はい	56	96.60%	1、研修会は、有意義と96.6%が回答	
	②いいえ	0			
	③どちらとも いえない	1	1.70%		
	④無回答	1	1.70%		
2、 日 程 に つ い て	時 期	①はい	40	69.00%	2、日程については、 時期：良いが69% どちらともいえないが29.3% 年度末、研修会の重複時期で多忙だったと考えら れる
		②いいえ	1	1.70%	
		③どちらとも いえない	17	29.30%	
		④無回答	0		
	時 間	①はい	37	63.80%	時間：良いが63.8% どちらともいえないが25.9% 日中か、もう少し早い時間を希望している
		②いいえ	5	8.60%	
		③どちらとも いえない	15	25.90%	
		④無回答	1	1.70%	

3、明日から実践出来ること

介護職

- ・薬局との連携(情報提供や相談)を実践する
- ・住民にも「かかりつけ薬局の必要性」や「薬剤師の役割・活動」を伝え、相談することを勧める
- ・医師同様に薬剤師にも情報提供(地域連携連絡票使用・受診同行・家族同行受診等)していく
- ・サービス担当者会議への出席を依頼する
- ・薬局の所在地や相談対応可能時間等を確認する
- ・一人で問題を抱え込まず、多職種に相談する
- ・どんな方でも内服状況を丁寧に確認する

医療職

- ・CMさんと連絡を取り合う
- ・患者さんからの聞き取りや相談に傾聴する
- ・気付きを外(他職種や住民)へ発信していく
- ・病院側は、在宅でスムーズに内服管理ができるように連携を図る
- ・病院スタッフに訪問薬剤指導の大切さを周知する

4、研修を通し感じた職種間の課題

①医療・介護の交流の機会を作る

- お互いに遠慮がある、距離を感じる(気持ちの問題)
- 情報交換・連携の方法が分からない
- お互いの役割・活動を十分把握(理解)していない

お互いの考えや悩みを知らない（聞いたことがない）

薬の相談窓口が分からない

薬剤師の在宅訪問指導の周知不足

## ②情報共有のための共通書式の周知と活用の促進

多職種に共通した書式がない(地域連携連絡票の存在を知らない)

### 5、自由記載の内容

- ・ 薬剤師の実際の連携を聞くことが出来た
- ・ 高齢化が進み、みんなの協力が必要。明日は我が身(自分事としてとらえて)
- ・ 地域の交流の機会があってよかった。定期的に開催して欲しい
- ・ 名刺交換が良かった
- ・ 薬剤師・他職種との距離が近くなった
- ・ 病院によってMSWの対応の仕方が違う